

刀又仙な僧侶たち

52

特集 修行





大阪ミナミで毎年地蔵盆にお勤めされる護摩祈祷。仏さまと一体になることを想い行者と参拝者がともに拜む。

日常は仏教の実践フィールドだ

仏教が日本に伝わってから1400年以上。いまや、その布教スタイルは多種多様だ。お寺では、音楽バンドの演奏が鳴り響き、プロジェクトインマッピングが本堂を鮮やかに彩る。ヨガ教室やマルシェ、修行体験の開催はもう当たり前。バンドやDJ、手品から茶道に武道まで、自分の特技を上手に活用して布教する僧侶も多い。もちろんそこに伝統的な布教も加わる。

様々な試行錯誤により、ここ数年で仏教に触れるための

入り口は増え、その敷居は低くなった。そして、数多くの人々が仏教を求め、お寺や僧侶を訪ねていたことは本当に嬉しいことだ。

だが、最近ふと思う。仏教を実践するため、入り口から先に進んでいる人はどれほどいるのだろうか。入り口で満足してしまっている人はいないか？ 進み方が分からず留まっている人はいないか？ そこが仏教の入り口だということにすら気づいていない人はいないか？

仏教は実践していく中で気づきにこそ旨みがあると思う。入り口から進み、出会った様々な仏縁から学んだことを日常に持ち帰って実践する。この繰り返しにより「自分なりの仏教の理解」が生まれるのではないだろうか。

仏教と気軽に接点を持てる今だからこそ、もう一度、現代における仏教の旨みについて考え、伝えていくことができればと思う。

フリースタイルな僧侶たち



修行

FEATURE

来たる11月17日(土)に、フリースタイルな僧侶たちと朝日新聞社さまのダブル主催イベント「修行体験ブッダニア」を今年も開催いたします。会場は同じく、大阪・ミナミのど真ん中にある真言宗・三津寺です。そこで、今号の特集は、やはり「修行」について。そもそもお坊さんは何のために修行をするの？修行を体験したらどうなるの？などの素朴な関心にお答えしつつ、ブッダニアのコンテンツ紹介やイベントに込めた思いを熱く語ります！

厳しさではなくて

これまでに「何回聞かれたやろう」という質問があります。それは「やっぱり淹に打たれたりするんですか？」です(笑)。お坊さんというと、滝行や千日回峰行などの、厳しい修行をする。イメージを持たれている方が少なくないですよ。実際、僕自身も僧侶になるにあたって1年間の修行をしたのですが、やはり厳しいものでした。

修行という言葉は、一般的にも「修行だと思って頑張ろう」という使い方がされたりします。最近だと「渡辺直美さんがニューヨークへ芸の修行に」というニュースも見かけました。厳しい環境に身を置いて、そこに耐えながら努力を重ね、自身を磨くという意味で「修行」という言葉が使われているように思います。このように、厳しさ、意識が向きがちですが、仏教の修行は、厳しさが本質ではないですよ。

例えば、真冬に冷たい水を浴びる「水行」。寒さに耐えること自体が修行だと思われるかもしれませんが、夏でも水行はするので、そこが水行の目的ではないんです。水行は垢離みずごりとも言って、六根清

浄のために、自身の煩惱の垢・汚れを浄めるために、水を浴びるんですよ。自身が煩惱で汚れているという自覚を持って、煩惱の汚れを浄めようという意志も持つてするのが水行です。

修行と一口に言っても、本当にたくさん修行があるし、宗派によって考え方が違うところもあります。だけど、すべての宗派に共通して言えるのは、「苦しみの原因である煩惱を減して、仏に成るために、仏教の教えを実践する」のが仏教の修行の本質だと言っています。ゴールへの道がいろいろとあるんですよ。

自分の弱さ・自分の膿

僕にとって修行中は、まさに自分の煩惱というか、自分の弱さよわさがあまり出される期間だったんですね。誤魔化す、他人のせいにする、横着する……。そういう弱さがぼるぼると出てくる。

例えば、修行生活の一日の始まりは、起床、勤行、掃除、朝食、講義という流れなんです。掃除が終わらないと「飯抜き」になる。それに、時間を過ぎてしまうと、写経を

「般若心経」一巻書かないといけない。写経を書くのは就寝前で、書かないといけないとなると睡眠時間が減る。すると、次の日またしんどい、という悪循環になるんですね。なので、本来はもっとキレイに掃除できるはずだけど「バレへんやろ」と思ってササッとやっちゃったり。自分がその仕事の担当だったら、うまくいって人に割り振って少し楽をすとか。そういう自分が出るんですよ。でも、修行を見てくださいている先生方も同じ修行時代を経験しているので、結局バレるんです(笑)。

それで怒られて、写経をして、「次からはしっかりと掃除しよう」と誓う。誓うけれども、本当にしんどい時には、弱さが出てきてしまう。「また出てきたな。誤魔化してもバレるんやろうな」とか、「また誤魔化そうとしてる。でもしんどいな」とか。それで、しんどいのが勝ってしまった時は、またバレー。綺麗に掃除しても、時間内に終わらなければ、また写経。そんな、悶々とした日々が続くんですね。

最初の頃は、正直「なんでこんなことさせられるねん」と、罰しかり的な感覚で受け取っていました。でもそんなことを続けているうちに、写経を

している自分を客観的に見つめることができるようになってきたんです。この写経があったから、もしも一人で修行をしていたら誤魔化したままになりそうな、自分の弱さ・自分の膿うみに気づくことができた。写経をして良かったなと思えるようになってきましたね。

仏さまを拝む

自分の膿が出たなと一番感じたのは、仏さまを拝む時でした。そこで出てきた自分の弱さ・膿が、本当の弱さだかなと思って。

修行の中盤の時期に、密教の秘法である仏さまの拝み方を学びました。例えば、護摩ごまを焚くことも、その一つなんです。拝む前には準備をすることがいろいろとあるんですよ。下座行(＝掃除)だったり、水行で身心を浄めたり。自分のお経本に注意点などを書き加えたり。それに、護摩を焚くための炉や密教法具が並んだ「壇」の準備ですね。密しやくの葉を置いたり、洗米を置いたりして、お荘厳する。

この準備は、よっぽど手を抜いたら先生にバレるけど、ちよつとぐらいなら分からない。バレないんです。たくさ

右ページ／加賀俊裕(かが・しゅんゆう)

1986年生まれ。真言宗僧侶。大阪ミナミ・三津寺(みつてら)副住職。京都大学工学部在籍中に障がい者支援の活動に取り組み、大学を中退。この活動によりお寺の役割を再考したいと考え、2013年から京都仁和寺において1年間の仏道修行を勤めた後、自坊に帰る。2018年4月よりフリースタイルな僧侶たちの代表。趣味はカメラ。最近欲しいものは暗室。



昨年のブツダニアでの「ミナミ仏さがレツアー」出発直前の一コマ。この後、三津寺を出て、いざ繁華街へ。1時間ほどかけてミナミの街をめぐった。



全600巻、500万字近い「大般若経」を、法要の時間内に読み上げるために考えられた「転読」。参加者全員で声を張り上げ経題を唱えた。

修行を体験してみる

んあるし、細かいし。それでまた、つい、思ってしまうんですよ。「寒いから、水行をやめようかな」とか。香炉の灰も整えるんですけど、多少雑なままでも分らないし、「このままやってまえ」って思ったり。

でも、そうして準備を怠ってしまおうと、拜んでる途中で「やっぱり、きちんとしたらよかった」と後悔が膨らんでくる。「なんて仏さまに失礼なことをしたんやろ」とか、「何のために自分は修行をしてるんや」とか。せっかく修行に来て、自分と徹底的に向き合える時間をいただいているのに、送り出してくれたお寺や檀家さんに申し訳ないという思いもあつたし。「何も感じずに修行を終えて帰るんかな」という焦りもありましたね。

仏さまを拜ませてもらっているのに、こんな自分のままで仏さまを拜んで仏さまに失礼だし、「自分に嘘をついて修行をして、何の意味があるんや」とも思っていました。

仏さまを拜む、仏さまと対峙するということは、自分と対峙することでもあつたんですね。仏さまという理想の姿と向かい合った時、頭が下がる。その時に知らされる自分の姿がありました。

は、歴史ですね。道端の仏さまやお寺のご本尊には、地域と結びついた歴史エピソードがあります。今年は、ブツダニア検定付き。大阪ミナミ随一の観光スポット、水掛不動尊・法善寺さまでは特別ご開帳も実現します。

「耳」の道場で体験していたのは「読経」です。真言宗の「大般若転読」、浄土宗の「切割笏」を用いた読経、日蓮宗の「団扇太鼓」を用いた読経の三つです。

お寺生まれの僕は、幼い時から訳も分からないままお経を唱えてきました。意味を理解してから唱えるというよりも、まず唱えることが先だったんです。お経にどういふことが説かれているのかは、今も学び続けている最中ですが、仏教の教えに触れる第一歩はやっぱりお勤め、読経だったなと振り返っています。

僧侶が唱えるお経は仏教声楽でもあって、今回の三つの読経はどれも迫力溢れる読経です。違いも楽しみつつ、お好みの読経を見つけてもらえたらなと思います。

「鼻」の道場は「護摩焚き」の体験。「護摩を焚く」と聞くと、プロ野球選手が汗を流し

昨年からフリースタイルな僧侶たちと朝日新聞社さんのダブル主催で、「修行体験ブツダニア」というイベントを実施しています。人間の認識の根幹である「六根（眼・耳・鼻・舌・身・意）」をテーマとした六つの修行道場が開かれ、そこで様々な修行を体験していただくイベントです。

仏教は車の両輪のように、修行、すなわち、教えを学ぶことと、教えを実践することと、をどちらも大切にします。理解と体感と言ってもいいですね。この特集記事が、ささやかながら「理解」の方だとすれば、ブツダニアでは楽しみながら修行を「体感」してもらえたらなと思っています。

六つの修行道場

「眼」の道場では、昨年同様「ミナミ仏さがレツアー」を企画しています。僧侶が案内人となって、ミナミの隠れた仏さまや魅力を探すツアーです。「仏さがし」といっても、地域におられるお地藏さんを見つけたことだけではなく、普段何気なく見ているものの背景を感じてもらえたらなと思っています。背景というの

ながら炎の熱さに耐えておられる場面をイメージされたり、熱さに耐えることが修行という印象を持たれているかもしれないですね。

真言宗では「護摩を焚いている行者と仏さまが一体になる」と考えられます。周りで拜んでいる方々は、行者と一体になる、行者を通して仏さまと一体になるんですね。仏さまと一体になろうとすると、自分の中にある煩惱を燃やし尽くさないと清浄な仏さまと一体にはなれないので、護摩は、自分の内に火をつけることでもあるんです。これまでの自分の業を、自分の心の中にある煩惱を焼き払っていく。また、護摩を焚く時にはいろんなものをお供えするのですが、お香もそのひとつです。香木をそのままお供えするのではなく、燃やすことで生じる、香りをお供えする。お香にはもともと文化として、その匂いで部屋を浄化するといった役割もありましたし、仏さまに清浄な香りをお供えしています。

「舌」の道場の修行は「食事作法」。曹洞宗の巖盛俊光さんにご担当いただきます。曹洞宗の修行と言えば、第一には「坐禅」。ただ、坐禅だけが曹

洞宗の修行ではなく、日常のすべて、一挙手一投足が修行であり、食事も大切な修行とされています。

食前には、「五観の偈」という偈文をお唱えします。これは「僧侶が食事に臨んで起こすべき五つの観点」で、その内容を訳せばおよそ次のようなもの。

- この食事のために、どれほど多くの方の汗が流されたか、どれほどたくさん命をいただくのかに思いを馳せる
- この食事をいただくに値する行いを自分ができていたかを省みる
- 不足の想いを起こさず、多くを食らないうちに慎む
- この「良薬」をいただくのは、飢えと渴きを癒し、命を保つため
- 仏道を歩む者として、まさに今この食事をいただく

ブッダニアでは、お粥とお漬物というシンプルな食事をご用意します。一つひとつの所作を丁寧に、静かにゆつくりといただきます。作法は僧堂で僧侶の方がされるままではなく、ブッダニアに合わせて少し和らげたものにしていただきます。音を立てず、食べることに命をいただくこ

とに集中する。その中でその「気づき」が、きつとあると思います。普段、何気なく食べている食事の際には感じられない「味」も、ぜひ体感してみてください。

「身」の道場の修行体験は、「礼拝行」と二つの「念仏」です。

「礼拝行」とは、仏さまに対する尊敬の心を身体で表すこと。仏さまに捧げる声明を学び、口に声明を唱えながら、本堂で礼拝を行います。

僕もそうでしたが、仏さまを拝むと、自分の姿が照らし返されます。礼儀という仏教の言葉もあるように、礼拝と懺悔は、ある意味ワンセット。日ごろの行いの懺悔をしながらの礼拝行を体験していただきます。

そして「念仏」は、座りながら木魚を叩いて称える浄土宗の念仏と、ステップを踏みながら節をつけて男女交互に称える時宗の「踊り念仏」です。浄土宗の僧侶・秋田光軌さんと、時宗の僧侶・岩田尚登さんにご担当いただきます。念仏とは、「南無阿彌陀仏」と称えること。浄土教のお経には「阿彌陀仏は『どんな者であつても必ず救う』と誓った仏さまで、念仏を称えていた



左 / 真言宗様式の仏前結婚式。僧侶の読経がお堂に響く中、厳肅に儀式が進みます。右 / 昨年は坐禅と念仏の比較を体験。今回はそれぞれ独立したプログラムに。



ら、自分の命が終わるときにお迎えに来られて、修行するのが極めて楽な浄土に往生させていただける」と説かれていたそうです。

秋田さんによれば、「荒唐無稽に聞こえると思いますが、そういう物語なんです。世の中には、物語があふれていますよ。『社会人たるもの、こうあらねばならない』とか『結婚したら幸せになるはずだ』とか。こうした物語があるから良いこともあるけど、その物語にハマれない自分を悔やんだり傷つけたり、物語に縛られることでしんどい思いをすることも。声に出して念仏を称えることは、現実とは別次元の浄土の物語と関わることであり、私たちの社会の物語を相対化し、書き換えていく実践でもあると思うんです。もちろん、すぐにピンとこないと思います。それでもとりあえずやってみる、称えてみるのが大切かな。自分で自分を見捨ててしまいたい時、見捨てない仏さまがおられることを、日常の中でも念仏を称えて、思い出してほしいです」とのことでした。

「坐禅」は、黄檗宗の僧侶・飯野顕志さんに担当してもらいます。「いま、ここ、じぶん」を見つめ直す坐禅の時間。体験で得たものを大切にしてみようという部分は残しつつ、腑に落ちるものを日常に持ち帰ってもらえるよう、坐禅が終わった後に、体験したこと、学んだことを共有する時間を設けています。

「散華作りワークショップ」では、お坊さん漫画家の光澤裕顕さん指導のもと、散華の華葩（蓮の花びらをかたどった紙）に、ブッダニアのイラストを用いた「ゆる写仏」をしていただきます。

日常生活での反復

もちろん、ここで書いてきたこと以外にも、体験して感じることは、ずっとたくさんあると思います。それぞれの方が感じたことを大事にしてもらえたら、そして、納得しながら、自分に合った仏教を探して行ってもらえたらなと思っています。ブッダニアが入り口になって、定期開催されている修行体験のイベントに足を運んでいただいたり、仏教に関心を持ってもらえたら嬉しいですね。

体験することに加えて、その修行を「反復する」ことも、大事なことだと思っています。修行中、僕は自分の弱さや、ことん知らされたわけですが、修行から出てきて日常生活に戻ってからも、事あるごとに弱さと直面しています。すると、その日常のすべてが修行になる。その場だけの、非日常的な体験として終わってしまおうとつけない。日常に戻られてもブッダニアで感じたことを反復してもらえたら嬉しい。反復の中でこそ得られる気づきがあるし、自分の中の気づきしか、生活に落とし込めないと思っています。

それでは、11月17日に三津寺でお会いしましょう！



箸袋に書かれた「五観の偈」。食事の前に唱えることで、命をいただくことにグッと意識を向けます。

お寺でよく見かけるけれど なんだろ“アレ” Vol.6

見たことあるある、でも、よくよく考えてみれば「なに?」「なぜ?」であふれているお寺。そんな「?」を、お坊さんならではの視点でご紹介!



文/竹林真悟

北海道生まれ。浄土真宗本願寺派僧侶。満誓寺副住職。西本願寺の無料境内ガイド「お西さんを知ろう」にも従事している。これまで100カ寺以上に参拝。趣味はガンダム。

ご本尊っぽいけどご本尊じゃない仏像アレコレ

各地には、宗派で当たり前だとされる「ご本尊」とは異なる仏像がご本尊になっているお寺がある。例えば、禅宗のご本尊といえば釈迦如来像を思い浮かべるけれど、観音菩薩像をご本尊とする禅宗のお寺もあるということだ。ご本尊が△△如来像でなければ○宗にあらず、ということあまり言われない。実は、ご本尊がはっきりと定められている宗派は少数なもの。ご本尊とお寺の歴史そのもの。いくつのお寺を見てみよう。京都市右京区の嵯峨野には清涼寺(嵯峨釈迦堂)という浄土宗のお寺がある。浄土宗のご本尊は阿弥陀如来像が多いのだけれど、清涼寺のご本尊は釈迦如来像だ。

じゃあ、阿弥陀如来像はないのかというと、清涼寺内の霊宝館(宝物館)に収蔵されている。阿弥陀如来像のご本尊だった時代には、まだ浄土宗は誕生しておらず、清涼寺の宗派自体も定かではなかった。そこに釈迦如来像が伝えられて華厳宗になったという。歴史あるお寺には、廃寺になったお寺のご本尊や、檀家さんから預けられたご本尊が、お寺のご本尊とは別に、本堂

の後ろや左右の壁際などに安置されていることがある。これらの仏像を「客仏」と呼ぶ。俗っぽく言うと、その仏像の歴史や作者がご本尊級だったとしても、ご本尊として扱われない仏像ということになる。とはいえ、客仏からもそ

来像の時代に、釈迦如来像がまるでお客のように伝えられているからといって、釈迦如来像も客仏ではない。お寺には、さまざまな理由で伝えられた仏像があるのだ。本堂内に安置されていないので、客仏と呼ぶかどうか難



三津寺の愛染堂に安置される愛染明王像。廃仏毀釈により取り壊された生國魂神社内の持宝院から移って来られた。歴史あるお寺との調和の中に安住の地を見いだされたことであろう。

のお寺の歴史を知ることができるもの。なかには、客仏の方が有名になっちゃっているお寺もあるから面白い。清涼寺の阿弥陀如来像はあ

しいところだけれど、フリスの代表・加賀さんが副住職を務める三津寺にも、客仏に似た性格の仏像がある。三津寺のご本尊は、本堂にいらっしゃる観音菩薩像。本堂とは別に「前堂」と呼ばれるお堂もあって、そこには愛

染明王像が安置されている。

この愛染明王像は、かつて生國魂神社の境内にあった生玉宮寺という神社内のお寺のご本尊だった。しかし、明治時代の神仏分離令によって三津寺に移されることになる。この時代は日本仏教にとって受難の時代。けれど、後に生國魂神社が戦災に遭ったことを思うと、神仏分離令が発令されていなかったら、愛染明王像はこの世から消えていたのかもしれない。

お寺の荘厳な御宝前に座ると、有難くもその心の中を見せてくださる仏像がいらっしゃる。それは往々にして、独りや気心の知れた親しい人と、そして、どちらかと言うと、少しばかり悩みを抱えて参拝しているときに起こる。出遇いだ。

そんな出遇いがあったのなら、何度でもその仏さまに会いに行こう。悲しさや寂しさが知らぬ間に薄らいでいたり、迷っているときに新しい道に気づかせてくれたり、たくさん言葉をお交わしたりすることができたらだ。

かかりつけ医、かかりつけ僧侶の次は「かかりつけ仏」。ぜひともお勧めしたい。



※方便(ほうべん)=悟りに導くための手立て

これから開催される フリスタ主催イベント

EVENT info.

分かち合いで生まれる 豊かな時間

「アラサー僧侶とゆるーく話す会」

12月9日(日) 京都・桃源山 明覚寺
1月26日(土) 大阪・七宝山大福院 三津寺



開催時間：14:30～17:00
参加費：1000円(フリスタサポーター 800円)
定員：各回10名
住所：明覚寺=京都府京都市下京区平野町783
三津寺=大阪府大阪市中央区心斎橋筋2-7-12

アラサーのお坊さん数名とゆるーくお話をする会です。話のテーマは、あなたの話したいこと。普段の生活の中でモヤモヤしていることや、とにかく誰かに聞いてほしいことなど、何でも構いません。単純にお坊さんと話がしてみたいという方や、お坊さんの生態や仏教の考え方に興味のある方、ただただまったりと時間を過ごしたい方も歓迎です。お茶とお菓子をいただきながら、お坊さんと一緒に考えてみませんか？お気軽にお立ち寄りください。

(申) <http://www.freemonk.net/events>
(問) info@freemonk.net

仏教版讃美歌を 唄って学んでみよう！

「ハナ唄になるまでが理想の聲明講座」

1月19日(土) 大阪・七宝山大福院 三津寺



開催時間：15:00～17:00
参加費：1,000円(フリスタサポーター 800円)
定員：20名
住所：大阪府大阪市中央区心斎橋筋2-7-12
講師：竹林真悟(浄土真宗本願寺派僧侶)

私たちの身の回りにあふれる音楽のルーツは、宗教音楽にあるといわれています。西洋音楽なら讃美歌、日本では能や狂言、念仏踊りや聲明(唄うお経)がルーツだそう。本講座は、1200年前に日本に伝来した聲明が、あなたのハナからメロディにのって出てくるまでが理想の超ビギナー向け講座です。みんなでお勤めをする、浄土真宗ならではのお経を唱えます。お寺で声を出すことに興味がある方はお気軽にお立ち寄りください。

※筆記用具をご持参ください

(申) <http://www.freemonk.net/events>
(問) info@freemonk.net

修行体験 ブッダニア

フリースタイルな僧侶たち
朝日新聞



イラスト=光澤裕顕

2018
11.17 Sat
11:00 — 18:00

会場：
七宝山 大福院 三津寺(心斎橋)

★各道場での体験1回500円から。学生は半額。事前申し込み不要

主催：フリースタイルな僧侶たち、朝日新聞社
問い合わせ先：buddhania@freemonk.net (ブッダニア担当：加賀俊裕)
◎詳細はフリスタのウェブサイトまで <http://www.freemonk.net/>

ご支援のお願い

フリースタイルな僧侶たちの活動を
応援して下さるサポーターを募集しています。

スクーターで通り過ぎる姿か、お葬式やご法事。僧侶を見かける機会はそれぐらいで、有名なお寺以外はなんだか入りにくい。僧侶としてこの現況を申し訳ないと思うし、もったいないとも思います。

なぜ私たちの苦しみは起こるのか。自分も他人も合わせになるために、いかに生きればよいのか。2500年にわたり伝わってきた仏教のポテンシャルは確かだ、今を生きる支えになると私たちは信じています。

固定観念にとらわれず、フリースタイルに——フリーマガジン・ウェブ・イベントを通して、軽やかに仏教と出会うように、安らぎや気づきが得られるように、持てる力を尽くしてまいります。

私たちの取り組みに共感し、応援して下さるサポーターを募集しています。仏教を身近に、日常に。そして、あなたの生きる力に。仏教が生きる安らかな社会をご一緒につくっていきましょう。

サポーター特典

- 弊誌を毎月お送りいたします(年間4回)
- 主催イベントにおいて、優待いたします。
- 法人サポーターの方は、誌面にお名前を掲載いたします。

ご支援くださる方は、下記サイトのフォームにご記入・お申し込みください。
担当者より、振込先などについて折り返しご連絡を差し上げます。

<http://www.freemonk.net/contact/support>

会費振込先

三井住友銀行/園田支店(422)/普通/5092943
フリースタイルな僧侶たち/代表 加賀俊裕

協賛年会費	個人=5,000円 法人=30,000円
-------	----------------------

お振り込みの際、あらかじめ下記のいずれかにご連絡くださいませ。

Tel. 050-5583-4330 E-mail. info@freemonk.net

協賛法人サポーターリスト

浄土宗……安心院(八幡市)/安楽寺(南丹市)
/延命寺(堺市堺区)/吉祥寺(萩市)/九品寺
(京都市南区)/教安寺(福津市)/慶藏院(伊
勢市)/光照院(台東区)/金剛寺(京都市東山
区)/西明寺(尼崎市)/西楽寺(京都市伏見区)
/西林寺(大阪府泉南郡)/浄栄寺(東近江市)
/正覚寺(青森市)/正善寺(伊丹市)/勝楽寺
(町田市)/真光寺(今治市)/新善光寺(札幌市
中央区)/崇福寺(甲賀市)/善願寺(甲賀市)
/善道寺(札幌市豊平区)/臺鏡寺(枚方市)/檀
王法林寺(京都市左京区)/潮音寺(東京都大
島町)/長壽院(台東区)/梅窓院(港区)/法岸
寺(静岡市清水区)/寶松院(港区)/法善寺(大
阪市中央区)/妙慶院(広島市中区)/無量光
寺(鳥取市)/湯川寺(函館市)/龍岸寺(京
都市下京区)

浄土宗西山禅林寺派……光明院・田中医院(京
都市中京区)/宝泉寺(津島市)

浄土真宗本願寺派……光栄寺(井原市)/光照
寺(大阪市東淀川区)/光徳寺(みやま市)/光
明寺(奈良県吉野郡)/西教寺(生駒市)/西方
寺(大和郡山市)/西法寺(北九州市)/浄元寺
(尼崎市)/正源寺(大津市)/正宣寺(大阪市北
区)/浄満寺(大阪市西成区)/信覚寺(福岡県
朝倉郡)/崇興寺(福山市)/養法寺(金沢市)

真宗大谷派……覚法寺(福岡県八女郡)/称讃
寺(新潟県長岡市)/正蓮寺(伊豆の国市)/超
覺寺(広島市中区)/宝皇寺(函館市)

浄土真宗本願寺派……緑泉寺(台東区)

天台宗……圓融寺(目黒区)/大圓寺(目黒区)
/本覺寺(横浜市鶴見区)

高野山真言宗……弘法寺(和泉市)/薬師院
(岸和田市)

真言宗豊山派……寶積寺(松山市)

真言宗御室派……三津寺(大阪市中央区)

真言宗須磨寺派……須磨寺(神戸市須磨区)

臨濟宗妙心寺派……円光寺(台東区)/宜雲寺
(江東区)/勝林寺(豊島区)/陽岳寺(江東区)
/龍雲寺(世田谷区)

臨濟宗建長寺派……帰一寺(静岡県賀茂郡)/
東光禅寺(横浜市金沢区)

曹洞宗……四天王寺(津市)/瑞生寺(浜松市
中区)/南駒寺(守口市)/鳳仙寺(宮城県亶理
郡)

日蓮宗……池上寶相寺(大田区)/法華寺(亀岡
市)/妙海寺(勝浦市)/妙見寺(橋本市)

時宗……正法寺(京都市東山区)

単立……五百羅漢寺(目黒区)/瑞聖寺(港区)
/法然院(京都市左京区)

企業・団体・店舗……(株)アールアンドダ
ブリュー(京都市中京区)/(株)アンカレッジ(港
区)/逸藤新兵衛商店(京都市下京区)/(株)カ
ウントワン(京都市中京区)/(株)京美仏像(京
都市北区)/京念珠ゼにや(京都市下京区)/

(株)薫寿堂(神戸市)/(株)作島(京都市下京
区)/茶坊えにし(台東区)/寺院コム(京都市
左京区)/翠光堂阪急淡路駅前店(大阪市東淀
川区)/大正大学(豊島区)/学校法人鎮西学
園(熊本市中央区)/豊田愛山堂(京都市東山
区)/一般社団法人日本石材産業協会(千代田
区)/(株)はせがわ(文京区)/浜屋(株)(姫路
市)/(株)Flucle(大阪府都島区)/坊主BAR
緑(岐阜市) *敬称略・五十音順

フリースタイルな僧侶たち Vol.52

2018年11月1日発行
発行人 加賀俊裕

発行所 フリースタイルな僧侶たち
〒542-0085
大阪府大阪市中央区心斎橋筋2-7-12
☎050-5583-4330

編集
若林唯人・光澤裕顕・飯村絵理子

デザイン
梅本龍青

企画協力
竹林真悟・飯野顕志・福山智昭・久松彰彦
福田瑞規・河村英昌・水戸智舟・財津宏経

展示特別企画 Where culture meets nature
～日本文化が育んだ自然～

「仏教と自然」展 会場：龍岸寺
平成30年12月14日(金)～12月24日(月・祝)

歴史的建造物をもつ空間の趣と自然史標本のもつ美しさを融合させて、日本の自然と文化の関わりを伝える展示会を京都市下京区の龍岸寺にて開催します。これまでのシリーズでは、町家や酒蔵で展開してきましたが、今年は寺院を舞台に仏教と自然との関わりをテーマとしました。仏教の教えは、生物や自然界の仕組みとも密接な関わりがあり、仏教の自然観は自然科学の原理と合符するところも多く、人類が自然と共生して暮らしてゆく上でも大切な視点をもたらしてくれます。会場となる龍岸寺は、日本の天文学の開祖である渋川春海ゆかりの地でもあり、自然科学とも深く関わっています。展示会では、仏教とゆかりのある動植物や祭礼で利用される自然由来のもの、建物やお墓で利用されてきた岩石、動植物の進化の歴史、日本最古の天球儀のプロジェクトマップを展示いたします。関連するセミナーも多数行いますので、関心のある方はぜひウェブサイトをご覧ください。

龍岸寺：京都市下京区塩小路通大宮東入八条坊門町564 〒600-8247



主催：自然史レガシー継承・発信実行委員会●構成館：北海道博物館／栃木県立博物館／国立科学博物館／三重県総合博物館／伊丹市昆虫館／大阪市立自然史博物館／北九州市立自然史・歴史博物館／兵庫県立人と自然の博物館(事務局)

問い合わせ先：legacy@hitohaku.jp

WEB：https://www.facebook.com/wherenature/



心といのちの電話相談室

☎ 03-3436-6823

相談受付 毎週月曜日・金曜日 10:00～16:00 (祝日、盆、年末年始は休業いたします)

あなたを支えたいと
願う人がいます。
つらいお気持ち
おはなしてください。

「心といのちの電話相談室」の特徴

研修を受けたお坊さん、
お寺の奥さんがお話を伺います

多彩なご相談に対応します

周囲の方もご相談ください

「心といのちの電話相談室」の約束

秘密は必ず守ります

勧誘はしません

無料でお受けします

「心といのちの電話相談室」事務局

〒105-0011 東京都港区芝公園4-7-4 公益財団法人 浄土宗ともいき財団 内
TEL.03-3436-3353 FAX.03-5472-4878 ホームページ <http://tomoiki.jp/>

詳しくは

心といのちの電話相談室 検索